

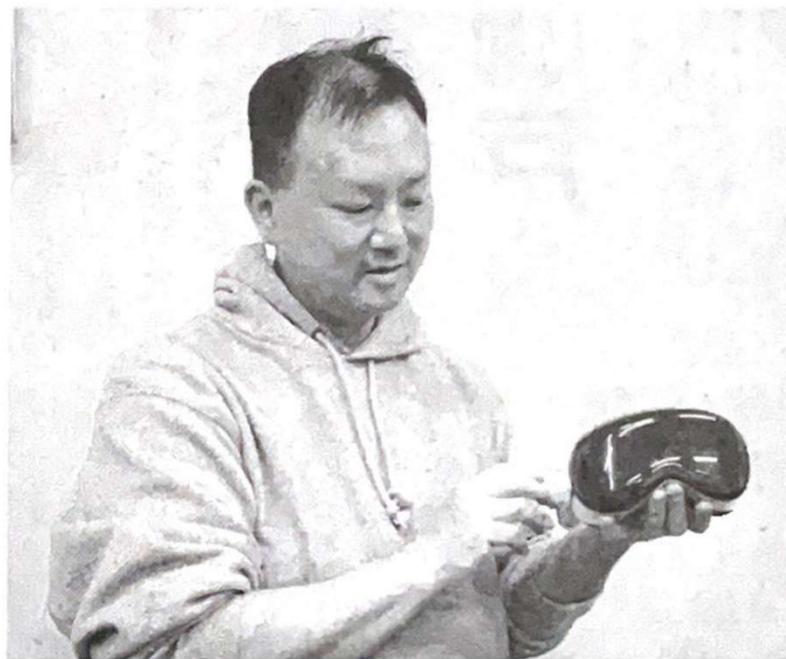
アップル社「Vision Pro」 ネクステラスが導入

ネクステラス（本社・札幌）は、米国で発売されたアップル社初の拡張現実（AR）端末「Vision Pro（ビジョンプロ）」を導入した。いち早く機能を検証し、木下大也CEOは「建設業で生かす道を見いだしたい」と話す。

ネクステラスは建設現場ARアプリケーション「TerraceAR」を提供。アップル社のOSで開発してきたため、同社のAR端末を待ち望んでいた。米国のみで2月2日からの発売が決まり、木下CEOは発表後即座に購入予約。同24日、サンフランシスコのアップルストアを訪れ、ビジョンプロを手に入れた。

木下CEOは「両手がふさがらず、広く見られるのがARの強み」と話す。ビジョンプロを「解像度や没入感が高い。後発だがよくできたハードウェア」と評価。遅延

「コンテンツ開発できる体制目指す」



ビジョンプロが建設産業へもたらす可能性を探る木下CEO

も少なく、米国内で動作確認したところ装着しながらまちなかを問題なく歩けたという。

まずはビジョンプロで個別注文のコンテンツ開発ができる体制を目指す。木下CEOは「何に使うかが大事。アイデアをもみたい」と可能性を探る。